（様式２）

事業完了報告書

日本財団　会長　笹川　陽平　殿

報 告 日 付 ： 2019年5月14日
事 業 ＩＤ ： 2018-A015-055
事 業 名 ： 平成30年7月豪雨災害に関わる支援活動
団 体 名 ： コミサポひろしま
代 表 者 名 ： 小玉　幸浩　　印
Ｔ Ｅ Ｌ ： 090-7979-0000
事業完了日 ： 2019年3月31日

事業費総額 ：	3,703,274	円	（収支計算書に記載の決算額）
支援金額 ：	3,000,000	円	（契約書に記載の支援金額。1万円単位）
自己負担額 ：	703,274	円	
支援金返還見込額：	0	円	

1.事業内容

実施した支援事業について、以下の内容を具体的記入ください。

（活動概要）

期　　間：2018年7月9日～2019年3月31日
※2019年度も継続して活動を実施中

活動日数：224日

総対応ニーズ数：個別ニーズ　393件　　コミュニティニーズ　39件
※継続ニーズも1件に数えて計算（同一ニーズに対して3日活動した場合3件で計算）

総活動者数：2,291名

活動内容：
① 重機を活用した民有地、コミュニティ管理地（用水路等）からの土砂、瓦礫撤去支援
② 床下からの土砂撤去と消毒支援
③ ブロック塀、物置等の撤去支援
④ 農地、工場等からの土砂撤去と現状復旧支援
⑤ 家屋の簡易修繕（壁、床等の簡易設置）
⑥ コミュニティにおける復興イベントの実施（クリスマスイベント、バスツアー等）
⑦ 一般ボランティアのコーディネート、企業ボランティアの受入れ
⑧ その他、復旧、復興に係る住民、また社会福祉協議会等からの依頼への対応

2.事業評価

1)事業目標の達成状況：

【契約時の目標】

① 人力では難しい岩やガレキを撤去することで、一般ボランティアが活動可能な環境（安全確保）ができる他、それにより、多数のボランティアが活動に加わることで、早期の生活環境の復旧に寄与することができる。

② 重機での活動により、早急に家屋の土砂だし、ガレキ撤去が進むことで、人力の場合に比べ、被災住民の家屋の再生（リフォーム等）への期待が高まり、強いては地域からの転居等を防ぐことができる。

【目標の達成状況】

① 復旧初期（7月～8月）の期間において、呉市災害ＶＣ，被災地で活動する民間業者、自衛隊等と協力を行うことで、一般ボランティアの活動環境の確保に努めることができ、それにより、天応、吉浦地区のいち早い復旧に寄与することができた。

② 活動期間を通し、2,000名を超えるボランティアが団体を通して活動を実施した。ボランティアは一般、学生、企業ボランティアと多岐に渡る、何より、地域に暮らす若者を中心とした長期のボランティアの受皿になった点は地域の復旧・復興に大きく貢献したと考える。。

③ 重機を活用するだけでなく、床下からの土砂だし・消毒等も実施することで、住民さんに安心感を持ってもらい、解体ではなくリフォームに繋がる対応も実施出来たと考える。

2)事業実施によって得られた成果：

① 団体がメインで活動した呉市では、安浦地区を除き、重機で主な活動を行った団体がなかったこともあり、復旧初期の進捗に対して大きな成果があったと考える。また、代表が呉出身でもあり、地域内で活動する民間業者等とも円滑に協議し活動を行え、効果的に土砂・瓦礫の撤去を行うことができた。結果、地域・被災者の生活復旧・復興に貢献できたのは成果であった。

② 今回の活動を通し、多数の地域の若者が長期に渡り活動へ参加することとなった。それにより、地域のニーズを地域住民が直接くみ上げ対応できるようになり、細かな相談等へ対応できたことは、被災住民の安心に繋がった。

③ 重機だけでなく、これまでの被災地での経験から、床下の土砂だし、消毒、家屋の一部補修等多様な形での活動を実施出来た。活動地域内で同様の活動が可能な団体がなかったことからも、被災者の生活復旧・復興へ大きく貢献できた点である。

④ 当初は天応地区、吉浦地区での活動を中心に考えていたが、呉市災害ＶＣの閉鎖、各団体の撤退等に伴い、局所的な被害であった川尻、倉橋、小坪地区等、支援の手が十分届いていない地域でも活動依頼があり、それらに対応できた点も大きな成果であった。

3)成功したこととその要因：

① 社会福祉協議会、民間業者、自治会等、復旧に関わる各団体との連携を通した活動の効率化。

⇒ 過去の社協との連携実績を通した、災害ＶＣへの理解。

⇒ 代表が呉市出身でもあり、地域での繋がりを活かせたこと。

⇒ 当初より長期的な支援を視野に入れ活動を実施したことで、地域のペースに合わせた活動を行うことができた。このことが、地域との信頼関係の醸成、連係を可能にした。

② 土砂・瓦礫の撤去

⇒ 多数の重機系協力者が地域を中心として得られたこと。

⇒ 地域自治会との協力体制

⇒ 早い段階で重機のレンタル等、体制を作ることができたこと。

③ ボランティアの受入れ

⇒ 過去のボランティア受入れ実績で得たノウハウ（安全管理等）の活用

⇒ 地域住民の協力を得て、ベースや水道等、受入れに必要な環境が整備できたこと

⇒ 地域住民の参加により、近隣からのボランティア参加のハードルが低くなったこと

④ ニーズの対応

⇒ 長期の活動が可能であったこと、地域住民がボランティアとして参加したことにより住民がニーズ相談を行いやすくなったこと。

⇒ 過去の経験を活かし、災害ＶＣとのニーズの擦り合わせ等ができたこと。

4)失敗したこととその要因：

① 資金面

⇒ 当初、活動規模や内容を重機に絞って考えていたため、消耗品や備品等に関する予算の検討が十分でなく、床下や消毒、補修等のニーズに対応する中で、予定以上に資金面での支出が多くなった。

② 農地、局所被害地域における対応

⇒ 夏以降、災害ＶＣの閉鎖、ボランティアが減少する中、多数の地域で取り残されたニーズに直面した。団体として可能な限り対応をしたものの、対応がもう少し早く、また、災害ＶＣ等とも情報共有を行うことができれば、被災住民が再建を諦める前に対応も可能であった。活動人数、範囲に限界はあるものの、他団体や災害ＶＣ等とどのような役割分担が可能か等今後の課題と考えている。

3.事業成果物

報告書　「2018 年 4 月～2019 年 3 月活動の振り返り」

ＦＢによる報告　活動開始より毎日すべての活動についてＦＢにて発信を行っている。

4.添付資料

報告書　「208 年 4 月～2019 年 3 月活動の振り返り」

以　上